

お便りください

このコーナーは、皆さんの意見や地域の問題をお届けしています。
広報広聴課☎55-2700へご連絡ください。

◀▼地元高校生の作成による巨大看板も登場



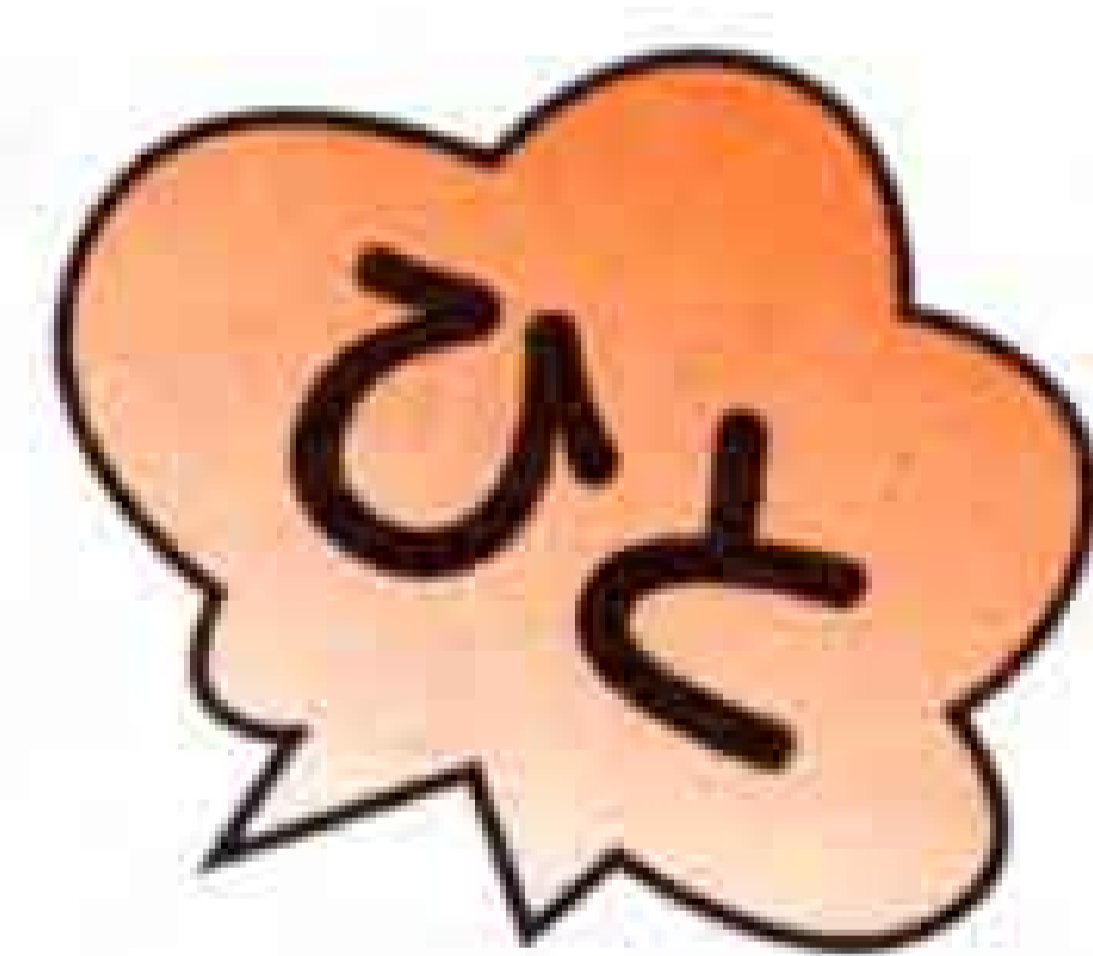
▶パレードでかぶる紙のかぶとづくり

ことしは東海道に宿駅が制定されてちょうど四百年。これを記念して各地で東海道四〇〇年祭が開催されています。そしていよいよ富士市でも「吉原宿場まつり」が、十月二十七日(土)(雨天の場合は二十八日)に吉原本町通りを中心に開催されます。祭りは、大きくパレード、ステージ・ストリートイベントの二部で構成。歴史色豊かなイベントがメジロ押しです。
現在、吉原宿・宿場まつり実

いよいよ十月二十七日(土)に開催
東海道四〇〇年祭・吉原宿場まつり



行委員会を中心に、吉原地区を挙げて間近に迫った祭りの準備に全力投球中。実行委員会の皆さんは、「かつての吉原宿あたりには当時の様子をしのぶ文化財がほとんどありませんので、今回のお祭りでは、宿場町の雰囲気が出せるよう趣向を凝らしました。紙の街にふさわしく段ボールでつくったかぶとをかぶつての時代パレードは必見。また、祇園祭以外では七十数年ぶりという山車の引き回しを行うなど記念のお祭りにふさわしい内容にしました。
このお祭りをきっかけとして活力のある街にしていきたいと思っています。ぜひお祭りに足を運んでください」と弾む声で意気込みを語ってくれました。
※本号の広報ふじと一緒にチラシを全戸配布しています。なお、会場案内など詳しくは、開催当日の新聞折り込みのチラシをご覧ください。



三味線で日本の心を伝える

みね わき **嶺脇 栄太郎さん**
(富士見台6)

津 軽三味線の本場青森県で開催される全国大会で入賞するほどの腕前を持つ嶺脇さん(本名・嶺脇武紀さん)は、民謡好きの父の影響で、子どものころから三味線の音に耳なじんでいました。本格的に学び始めたのは、秋田県から就職のために富士市へ来て間もない十九歳のときから。
そして昭和五十九年、三味線一本の道を決意して、会社を退社しプロへ。以来、演奏活動や後進の指導に情熱を傾けるほか、ボランティアとして高齢者施設への慰問演奏、公民館や小中学校のコンサートで、力強くしんのある音を会場いっぱい響かせています。
嶺脇さんは、「三味線はコードも和音もない楽器です。それだけに奥が深く、弾く人それぞれ個性が出ます。津軽三味線は、普通の三味線に比べて、皮を張



8月末、小中学校の授業に役立ててほしいと市に三味線と尺八を寄贈



ってある胴が大きく、さおや弦が太くなっています。さらに奏法でもばちで三本の弦をはじく以上に、たたくといった打楽器的なところが強いのも特徴です。上達にはとにかく毎日の練習が大切。音のツボは経験の積み重ねでつかめるものです。
これからは、演奏活動と後進の指導を両立させながら、自分の音を追求していきたいと思っています。心を込めた演奏をするためにはエネルギーを使いますから、日ごろからの体力づくりは欠かせませんね」と話してくれました。